記念号『図学研究の広がり』

梶山 喜一郎 Kiichiro KAJIYAMA

学会誌『図学研究』は、不惑である創立40周年を記念し、皆さまのご支援のもとに記念号「日本図学会創立40周年 図学研究の広がり」を発行することができた。記念号では特集として、会員である図学の研究者達が挑んでいる図学の領域と先端を視覚化した。具体的には、この10年間の学会誌と大会学術講演論文集に掲載した研究文献を収集整理分類し、研究分野の解説、要旨集、文献リストを作成し、現在の「図学研究の広がり」を記念号に記録した。記念号の目次構成を次に示す。

1. 挨拶
2. 図学研究の広がり
3. この10年間の学会活動
4. 資料

特集を企画した背景は次のような理由による。日本図学会は創立時、図学とは広い範囲の図形及びその応用に関するあらゆる分野を包括するものと考え、会員も図学教員だけでなく理工学、造形芸術、心理学の教育者や研究者に学会への参加を求めてきた。学会は創立10周年で「図形科学ハンドブック」を刊行し「図法幾何学・設計製図」以外に広がる図学の領域を明示した。その後も、会員は、創立当時の意志をふまえ過去の図学を消費するだけでなく、新たな図学を創出し領域を拡大し、伝えるべき教育分野を広げてきた。この内容あるいは図学に対する会員の思いは「20周年記念号」、「30周年記念号」に詳しい。

一方で創立から40年経ち会員の活動する個別領域の専門性が深まり、成長している図学の全体あるいは図学の体系に関する共通理解が会員間で得られなくなっている状況も生まれている。会員外の社会では、創立40年過ぎた今も、図学は「図法幾何学・設計製図」からなる教科の体系であると誤解する過去の図学の残渣がまだ見られる。

創立40周年の節目に、会員間で時代とともに成長する図学の領域あるいは図学の体系に関する共通理解を持つ

ことは、これから創立50周年を迎える日本図学会を考える上で重要であろう。

「図学研究の広がり」は、この10年間の会員の研究活動を、論文投稿の際に用いるキーワードをもとに分類し、各分野についてどのような内容の研究が行われているかを解説した。各分野の解説で紹介した文献の要旨や文献リストも掲載している。

図学論の研究、設計論の研究、平面幾何学の研究、
空間幾何学の研究、応用幾何学の研究、
コンピュータグラフィックスの研究、
形状処理の研究、画像処理の研究、
CAD/CAMの研究、形態構成の研究、
造形論の研究、図学教育の研究、
設計・製図教育の研究、造形教育の研究、
教育評価の研究、教材開発の研究、
空間認識の研究、図学史の研究

会員の皆さまが普段目を通されない分野の解説・要旨集・文献リストをお読みになり、図学はどのような領域で研究しているか、どのような内容を研究しているかを再確認していただければ幸いである。10年後20年後、ここに示された現在の分野は一時的なもので終わるのか、それとも図学会の将来の歴史に組み込んでいくものか。これらを想像してほしい。また過去10年間の研究リストを振り返り、これから先の研究意欲を奮い立たせてほしい。図学研究をこれから始める者には、図学のガイドブックとして紹介してほしい。